

乗雲

寺報
第83号

H24.3.5 発行

編集人

〒959-2646 新潟県
胎内市西栄町 2-8
TEL0254-43-2419
FAX0254-43-4560
広蔵寺
住職 神田英俊

メール
otera@kogonji.jp

汝等比丘、常に当に一心に出道を勤求すべし。一切世間の動不動の法は、皆是れ敗壞不安の相なり。汝等且く止みね、復た語いと勿れ。時將に過ぎなんと欲す、我れ滅度せんと欲す。是れ我が最後の教誨する所なり。

遺教經

修行者よ、いつも一心に仏道を求めるがよい。一切世間の有りようはすべて無常であるから、ただ一心に仏道を修行して、解脱を求めよ。みなもの者よ、しばらく止みね、また語るのを止めよ。暫く静かにせよ、時が過ぎていく、私は滅度する。今、私が説いたことは、私の最後の説法である。さらば、弟子たちよ。

松原泰道訳

遺教經はお釈迦さまがお亡くなりになるときに、集まっていた弟子たちに説いた最後の教えです。「この世は無常である、生あるものは必ず滅する。私とて同じである。限りある命を大切に仏道修行に励みなさい。」二月十五日、お釈迦さまはこの言葉を最後にインドのクシナガラ、沙羅樹の林の中で、大勢の弟子、動物、虫等の沢山の生き物に囲まれて、八十歳の生涯を閉じられました。



涅槃図

葬儀には仏弟子となる儀式をいたし、「血脈」をお授けします。この血脈は正しくお釈迦さまから法を受け継いできているという証のものです。お釈迦さまを開祖とし、二十八代目の達磨大師がインドから中国に伝え、五十代が道元禅師の師匠である中国の如浄禅師、そして五十一代が日本の道元禅師となり、それ以後、弟子たちが法を継ぎ、現広蔵寺住職でお釈迦さまから数えて九十二代、九十三代目が檀信徒の皆様となります。インド、中国、日本、師から弟子へと相続されてきた系譜が血脈です。二千五百年前のお釈迦さまの仏教が現在に至るまで連続と続いてきています。

お釈迦さまの教えは、「真似をする」ことから始まると言われています。「学ぶ」の語源は「真似ぶ」とされ、仏さまの真似をすることによって、『成仏』すなわち仏に成ることができます。「行い」、「言葉」、「思い」それぞれ仏の教えにかなったものになるように心掛けて、真似をし続ける。これが仏教を信仰するもの生き方です。

平成二十四年度年回表

「回忌」	「没年」
一周忌	平成二十三年
三回忌	平成二十二年
七回忌	平成十八年
十三回忌	平成十二年
十七回忌	平成八年
二十三回忌	平成二年
二十七回忌	昭和六十一年
三十三回忌	昭和五十五年
五十回忌	昭和二十八年
百回忌	大正二年

* 今年の年回忌のご案内は、昨年十二月に正当の各家に通知いたしております。

* 日曜・祝日のご法事の申し込みはお早めにお願ひいたします。

「周」は「めぐる」ことを意味する言葉で、亡くなってからちょうど一めぐりした翌年のその日を一周忌と呼ぶ。回忌とは亡くなられた日を最初の忌日と考えて、三回目の忌日が「三回忌」となる。以降は丸六年目が七回忌となる。